

# 倉吉絨展覧会 in ロシア

## 伯耆しあわせの郷織物教室、倉吉絨保存会

倉吉絨の展覧会がロシア・ウラジオストク市にある沿海地方国立美術館で今年4月15日から5月15日まで開催され、2,000人も来館者でにぎわいました。開催にあたり、倉吉絨保存会と伯耆しあわせの郷織物教室のメンバーで訪問団を結成し、現地で鳥取県の伝統工芸を紹介しました。



美術館正面には「倉吉絨展覧会」のポスターが掛けられました

昨年4月、倉吉博物館で開催した「伯耆しあわせの郷織物教室20周年展」を鑑賞し、倉吉絨の美しさに感動した沿海地方国立美術館のアジモヴァ館長から、同美術館のリニューアルオープン企画展として倉吉絨の展覧会を開催したいと、県を通して依頼がありました。倉吉絨が海外で紹介されるのは初めてでしたし、木綿の機能性や伝統技術のすばらしさを発信するよい機会だと思い、ウラジオストク市を訪れることにしました。



機織り体験や着付け体験の待ち時間には、折り紙教室も実施しました

展示品として、保存会や織物教室のメンバーが織り上げた着物や帯、タペストリーなど48点を準備しました。当初、絨の

藍色と展示館の壁の青色が重なり、作品が目立たないのではないかと心配もしましたが、照明を当ててみると藍色が映え、とても趣のある展示に仕上がりました。また、日本から持参した卓上機織り機を使った機織り体験や絨の着物の着付け体験を行い、美術学校や芸術専攻の学生をはじめとする地元の人々と交流することもできました。体験交流は、とても人気で順番待ちの状態になるほどでした。



機織り体験ではコースター作りに挑戦してもらいました

今回、倉吉絨が縁でロシアを訪れることができ、目を輝かせて作品を鑑賞しているロシアの人々の姿を間近に見て、「芸術や美術は国境を越えることができる」と実感しました。織物教室でも、ロシア訪問で刺激を受け、シベリア鉄道やロシア正教をイメージした文様を考え、作品作りに励むメンバーもいます。一本一本の糸に思いを込めて織り上げた倉吉絨の魅力が海外に発信できたことをうれしく思います。

### 通訳として同行したロシア出身の県国際交流員 **ユーリアさんの感想**

絨を見たロシア人がどんな反応をするか、絨のすばらしさが伝わるのか心配しましたが、展覧会には多くのウラジオストク市民が足を運び、沿海地方のマスコミにも広く取り上げられ大成功に終わったと思います。ロシア人から見て、倉吉絨は本物の芸術です。沿海地方の人々は、きれいな文様の手織り物を守り続けている保存会や織物教室の皆様の作品に感動していました。展示会が成功に終わっただけではなく、訪問団の皆様方がウラジオストク市をとても気に入ってくださったことも、国際交流員として非常にうれしかったです。これからも交流が続くことをお祈りしています！

この事業は財団の「山陰・夢みなと博覧会記念基金助成金」を受けて実施されました。財団ではこのような県民の方が企画、実施される国際交流・協力事業に対する助成を行っています。詳しくはお気軽に財団各事務所までお問合せください。

# 鳥取に新しい風を 子供たちと一緒に国際交流



**Close UP**

岩佐 ヴィヴィアンさん  
【フィリピン出身/米子市在住】

フィリピン生まれアメリカで育ったヴィヴィアンさんは、米子市内で英会話講師やダンスのインストラクターとして活躍しています。今年9月、地域の子供たちを引率し1週間アメリカ・オレゴン州ポートランドを訪問し、子供たちに、英語でのコミュニケーションや異文化に触れる楽しさを伝えました。

## 子供たちとポートランドへ行くことになったきっかけは？

「ヴィヴィアンがアメリカに行く時に、私の子供も連れて行って!」とある知り合いのお母さんから頼まれたのがきっかけでした。そのことを知った他の保護者の方からもお願いされ、以前米子を訪れたことのある私の友人(ポートランド在住)の協力も得て、9歳から12歳の子供たち7名と一緒にポートランドへ行く機会を設けることができました。学校を休んで行くことになるので、子供たちが在籍している学校の校長先生への説明も必要でした。保護者の方には「楽しいだけの旅行」ではないこと、「自分の身の回りのことは自分です」ことを理解してもらいました。



オレゴン州  
ポートランド



ホストファミリーに家族の一員として温かく迎えてもらいました

「ホームステイ先でも自分でできることは自分で!!」  
そしてお手伝いもしろっかやりました。

## ポートランドで子供たちはどのような体験をしましたか？

子供たちはグループに分かれホームステイを体験しました。美術館や動物園を見学したり、地元の小学校を訪問し、授業にも参加しました。最初はちょっと緊張していたようですが、スポーツや昼食の時間を通して、アメリカの子供たちと打ち解けることができました。また、



学校での授業

自分の考えをまとめ、発表するスタイルの授業が多いアメリカの学校で、英語だけでなく自己表現の仕方学びました。そして「食事にくら使い、お土産は何ドル以内で」というようにお金の使い方も子供たち自身に考えさせました。ホテルで食事をした際には、注文や支払いにも英語で挑戦、ナイフとフォークの使い方や料理の正しい食べ方など、アメリカの食事のルールも学習しました。



お昼は広いカフェテリアで、みんなで食べます

## 子供たちの成長が感じられた旅になりました。

この経験を通して私は、『言葉や文化の違いが多少あっても、人間は皆一緒だよ』ということを感じてもらいたいと思っていました。保護者の方は、「子供がひと回り成長して帰ってきました」、「本人も自信がついたようです」などと言ってくださっています。子供たちも学校の友達に、アメリカで見たものや体験したことを教えてあげているようです。何かを習得するのに1週間という期間は短いかもしれませんが、感受性が豊かな子供たちだからこそ、普段とは違う体験から何かを学びとってくれたはずですよ。

JICAデスク  
よりお知らせ

教員をめざしている学生、国際理解・異文化理解に興味をお持ちの一般の方

## 国際理解教育研修会のご案内

締切日

2014/ 1/16

木

JICA中国では、「参加型で学ぶ!教室から世界を知る授業・講座づくり」をテーマに、今年も国際理解教育研究会を開催します。「国際理解教育」に取り組みされている方を講師に迎え、「参加型手法」を取り入れた授業や講座づくりのコツをお伝えします。

日時 2014年 1月25日(土) 10:00~17:00

会場 JICA中国国際センター(東広島市)

お問い合わせ



独立行政法人 国際協力機構

鳥取県JICAデスク TEL:0857-31-5951(浅野)  
【鳥取県国際交流財団本所内】 E-mail:jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp



[Tottori in a Different Light]

# Intercultural Exchange with Children



**Close UP**

**Vivian Iwasa**  
[Philippines / residing in Yonago]

Born in the Philippines and raised in the United States, Vivian makes her living in Yonago City as an English teacher and dance instructor. We spoke to her about her week-long trip in September to the state of Oregon, where she led local children in English communication and learning about a different culture.

## What made you decide to take the children to Portland?

One of the mothers I knew wanted me to take her child with me the next time I went to America. After that other parents joined in asking the same thing, and I asked my friend in Portland, who came to visit Yonago once, and made arrangements to bring a group of kids aged 9 to 12 over there. It meant they'd have to take time off from school, so I had to explain things to their school principal. I had to

They did things for themselves and helped out around the house during their homestay.



The children were welcomed as members of the family.

make the parents understand that it's not just a pleasure trip, that they'd have to do things for themselves.

## What kind of experiences did the children have there?

They were divided into groups to do homestays. They went to a museum and a zoo and visited a local elementary school to take part in classes. They were nervous at first, but after they got to play some sports and have lunch, they got along fine with the American kids. They also got exposure to American learning style with its emphasis on presentation, and they learned not only English as a language but also actually how to express themselves. And they had to think for themselves about how to use their money—how much meals would cost, how much to spend on souvenirs. They had to order their own food in English at the hotel, and learn American table manners and how to properly eat with a knife and fork.



All students eat together in a huge cafeteria.

## They must have grown up a bit during this trip.

I wanted the kids to understand that across language and culture, human beings are basically the same. I had parents tell me afterward how much their child grew up and how much confidence they gained. They went to school with plenty of stories about what they experienced in America. A week might seem like a short time to really learn anything, but children are sensitive and gain a lot from experiencing something different from their everyday lives.

# Winter Lifestyles around the World

Tottori residents from Lithuania and Finland tell us about how their people live in winter.



## Lithuania

Till now many people prefer to use traditional home remedies. This includes a wet towel wrapping to reduce fever, and many kinds of organic herb teas from granny's garden.

Lithuanian "Mardi Gras" called Užgavėnės (a day before Lent). As Lithuania has very deep Pagan roots, this festival marks the last day before Lent but also is a festival celebrating the last days of winter and welcoming Spring. Traditional Užgavėnės food is pancakes symbolising the sun.



▲Mask and Costume for Užgavėnės



## Finland

Nowadays many Finnish people like to eat spicy food with chili pepper to keep warm. We drink hot black-currant juice, which has a lot of Vitamin C. Some people would add one spoonful of vodka to warm the body.

Some people go swimming in the lake even in winter. They make a hole in the ice and dip into the cold water. After that they warm up in the sauna. We believe this is very healthy and good for blood circulation.



▲black-currant



## Winter Lifestyles in Japan

(special supplement to the English section)

There are many devices in Japan for beating the cold, the most characteristically Japanese of these being the *kotatsu*. A heater is set into the underside of a table and a blanket covering the surface keeps the heat inside. For going outside, disposable heating pads are very convenient—they are activated by shaking and attach inside clothing.

It was traditionally thought that drinking an egg liquor, *tamago-zake*, helped warm the body to prevent catching cold. In other parts of the world egg-based drinks containing rum or whisky may be popular; we offer this version of eggnog using the traditional libation *nihon-shu*.

## Japanese-Style Eggnog Recipe

Let this drink help you through Tottori's cold winter

[Serves 1-2]

**Egg**.....one whole  
**Nihon-shu** 140ml  
**Sugar**.....1 tbsp  
(or to taste)

[Directions:]

- 1 Mix all ingredients and beat with a mixer.
- 2 Heat the above mixture in a saucepan over medium heat and continue beating.
- 3 When the eggnog begins to thicken, remove from heat and serve in cups.

【鸟取新风格】

# 和小孩一起做国际交流



Close UP

岩佐 ヴィヴィアンさん  
【菲律宾出身 / 现住米子市】

在菲律宾出生、美国长大的ヴィヴィアンさん以身为一位英语老师及舞蹈指导者而活跃于米子市。今年九月，她率领地区的小朋友到美国俄勒冈州波特兰去访问了一周、让小朋友们体验到以英语沟通的快乐及接触异文化的快乐。

## 带领小朋友一起到波特兰的契机是什么呢？

有一天，一个朋友对我说：「ヴィヴィアン，你去美国的时候也一起把我的小孩一起带去吧！」。这就是这次活动的主要契机。然后其他的家长听到后也都这么拜托我，所以我请我以前曾经住在米子、现在住在波特兰的朋友一起帮忙，才能有这个机会率领7位9岁到12岁的小朋友到波特兰。因为必须要跟学校请假，所以我们也得跟校长说明并得到同意才行。当然我们也让家长们知道这并不单只是「快乐的



他们热情的欢迎我们成为家族的一员。

在寄宿家庭主张  
「自己做得来的事自己做！」  
并且也帮忙做家务。

旅行」，「自己的事情自己做」才是主要目的。

## 在波特兰时，小朋友们都有了些什么样的体验呢？

小朋友们分组个别体验了不同的寄宿家庭。去参观了美术馆、动物园、访问了当地的小学并且一起上课。刚开始好像有点紧张，但是透过运动及午餐时间的交流，最后跟美国的小朋友都能很融洽的玩在一块。另外他们也知道了美国的学校大多是以整理自己的想法、并勇敢的发表出来这样的教学方式，所以他们不只是学习到英语，而且还学习到如何自我表现的方法。然后我们也让他们自己去思考「该花多少钱吃饭、买土产该在多少钱以内」这样的金钱观念。在饭店用餐时，我们除了让他们自己挑战用英语点餐及付帐之外，他们也学习到了如何使用刀叉及正确的用餐方法等地道的美国用餐规矩。



中午在学校的宽广的食堂里和大家一起用餐。

## 感受到了孩子们的成长之旅。

我想要透过这个经验让孩子们能够感受到「即使语言或文化多少有些不同，但是「人」都是相同的！」。我有听到家长们说：「我觉得我的孩子成长了不少」、「小孩自己本身好像变得更有自信了呢！」等等。而这些小孩们在学校好像也将自己在美国所看到的、体验到的分享给他们的同学。如果说在短短的一周内想要学些什么，可能有些不太够，但是相信这些感受性丰富的孩子们一定从这些经验中学习到了些什么吧！

中文担当

# 财团的新协调员的介绍



【中国出身】



王明娟

在本所服务。

- 星期一与星期五 / 9:00~17:00
- 星期三 / 9:00~12:00

除了接受一般日常生活上的咨询之外，也以中文提供一些资讯或聊天服务。



你好，我叫王明娟。来自中国的山东省。今年是我来日本的第8年。初次见面，请多多关照。

我的故乡位于山东半岛的最东端，一个叫“石岛”的海边小城。这里有漂亮而美好的海上日出的风景，也有美味的渔村料理，比如说有“鱼锅饼子”“鲅鱼饺子”等。传说唐代的时候，日本的慈觉大师—圆仁曾在这里的“赤山法华院”修行多年。现在的赤山法华院成为了象征中日韩友好的旅游胜地。

今后我要充分发挥在日本留学和生活的经验来做好国际交流协调员的工作。如果大家有什么关于中国、中文、或是在日常生活和学习上的烦恼、或其他的困难，不要客气，随时和我联系吧。

# 【公益財団法人鳥取県国際交流財団】

## あなたもぜひ、賛助会員に!

当財団では、県民の皆様の幅広い支援・参加を得て、皆様とともに県民参加型の国際交流事業を進めていくため、趣旨に賛同して下さる賛助会員を広く募集しています。国際交流に興味はあるけど何から始めればいいのか分からないとお悩みの方も、まずは当財団の賛助会員に!きっと楽しい世界が広がるはずです。皆様のご入会をお待ちしております!!

### 入会方法

財団の各事務所で入会を受けています。また、公共施設にも申込用紙を置いてありますので、必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。

### 【入会対象者と年会費】

個人会員	1口/ 2,000円
学生会員 (高校生以下)	1口/ 500円
団体会員	1口/ 10,000円

※会員期間は、毎年度4月1日から翌年の3月31日までです。  
※途中入会の場合、年会費は入会月に合わせて割引になります。

### 会員特典

特典1 財団情報紙(年4回)「とっとり国際通信」送付

特典3 提携飲食店、観光施設等割引サービス

特典2 財団図書貸し出し増冊サービス

特典4 旅行会社のパック商品等優遇割引

※提携している飲食店、観光施設、旅行会社等とサービス内容については、ホームページに掲載しているほか、一覧表を機関紙と共に送付いたします。

## 外国語にチャレンジしてみませんか

財団各事務所には、英語や韓国語、中国語などいろいろな言語の学習教材がそろっています!



「海外旅行の前に少し言葉を覚えてから行きたい!」「近所に外国の人が引っ越してきた!」など、外国語をちょっと勉強してみたいと思ったことはありませんか?財団では皆様のご希望に添えるよう外国語の学習ができるテキストやCDを貸し出しています。

環日本海交流に役立つモンゴル語やロシア語をはじめ、アラビア語やクメール語などの教材もあります。歌を聴きながら、また外国語で書かれた日本の漫画や小説を読みながら楽しく勉強

できる本、外国語で日本の文化や料理を紹介する本なども置いてあります。すでに学習中の方には、TOEICや中国語検定などの語学検定試験対策の教材がお勧めです。過去問題集やリスニング対策、単語帳や辞書などを使って言語に磨きをかけましょう。

※各事務所で蔵書は異なりますが、最寄りの事務所で取り寄せることができます  
※子供用英語教材のDVDや英語の歌のCD、各国の絵本なども貸し出しています

### おすすめ図書



『やさしい台湾語カタコト会話帳 -まずはこちら!』  
旅行やビジネスですぐに使えるフレーズが満載!カタコトでも現地の言葉が話せれば、旅行もさらに楽しくなるはず。



『魔法のリスニング 英語の耳づくりルール120 (CD付)』  
語と語の音をつなげることで生じる「音の変化」など、リスニング力アップにつながるポイントを紹介します。



『K-POPで韓国語!』  
人気のK-POP、10曲を教材に語彙や文法、発音の勉強ができる一冊。韓国語で歌ってみたいという人にお勧めです。

### 本所

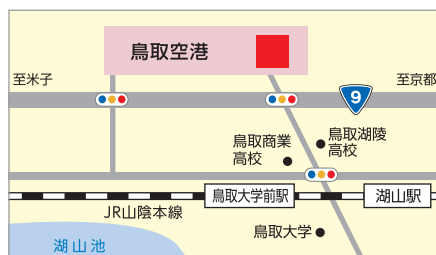
Head Office / 本所

〒680-0947

鳥取市湖山町西4丁目110-5 鳥取空港国際会館1F  
TEL.(0857)31-5951 FAX.(0857)31-5952  
E-mail / tic@torisakyu.or.jp

#### ■利用時間

平日 9:00~18:00 土日 9:00~17:30  
祝日・年末年始はお休みです



### 倉吉事務所

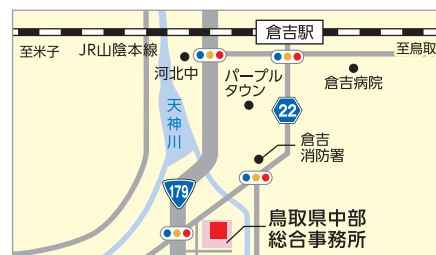
Kurayoshi Office / 倉吉事務所

〒682-0802

倉吉市東巖城町2 鳥取県中部総合事務所別館  
TEL.(0858)23-5931 FAX.(0858)23-5932  
E-mail / tick@torisakyu.or.jp

#### ■利用時間

平日 8:30~17:15 土日・祝日・年末年始はお休みです  
※臨時に閉所する場合は、HPで随時お知らせします。



### 米子事務所

Yonago Office / 米子事務所

〒683-0043

米子市末広町294 米子コンベンションセンター1F  
TEL.(0859)34-5931 FAX.(0859)34-5955  
E-mail / ticy@torisakyu.or.jp

#### ■利用時間

平日 9:00~17:30 土日 10:00~17:00  
祝日・年末年始はお休みです

